

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイトに記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	渡邊 望愛	学年(渡航時)	3年
派遣先大学	キール大学		
国・地域	イギリス		
派遣期間	2024	年 9 月 ~	2025 年 1 月

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
English for Academic Purposes 3	英語のテストを基にクラスが分けられます。参考文献の書き方やアカデミックな英単語を学びました。
British Cultural Studies	イギリスの文化や歴史、方言等、あらゆる分野について学びました。
Investigating Social Issues	講義ごとに異なる社会問題が取り上げられました。セミナーでは学んだ内容に関連して学生どうしで議論します。
Media, Culture, and Power	メディアの影響力を理解するための理論を学びました。セミナーでは毎週教授が課題の添削をしてくれました。

留学レポート(1,500 字以上)

私が留学を決めた理由は3つあります。1つ目は英語力を上げるためです。4カ月という短い期間ではありますが、特にリスニング力は伸びたのではないかと感じています。留学前から私はリスニングを苦手としていました。それを克服するために、とにかく英語を聞くことを徹底しました。時間がある時にはポッドキャストを聞き、英語を聞くという環境を作りました。そのおかげもあって IELTS のリスニングスコアは得意なリーディングに次いで高くなりました。そして、それまでよりはリスニング力にも自信をもってイギリスに留学しました。しかしながら、留学が始まって1、2カ月は自分のリスニング力に絶望しました。想像以上にイギリス英語を聞き取るのに苦戦し、会話の中で相手に何度も聞き返すという状況が続きました。それでも、何度でも聞き返していいと言ってくれる周りの友達のおかげで、会話に参加することに億劫にならず、英語を聞くという環境に浸ることができました。帰国前にはリスニング力がさらに上がり、会話もスムーズにできるようになったと思います。

留学をした2つ目の理由は学問的な学びを得ることです。キール大学では専門分野である社会学の授業を1つ受講しました。その授業では、毎週異なる社会問題が取り上げられ、イギリスでの現状や問題点が紹介されました。私が最も印象に残っているのは貧困コミュニティに関する授業です。イギリスでは地域によって住み分けが進み、コミュニティ全体が貧困に陥っている所があるという事実を知りました。そして、そのコミュニティは重工業など伝統的な産業の衰退と関わっていたり、貧困状況は次世代に再生産されたりすることを学びました。今までの私は、エスニシティによる住み分けのことしか知らなかったの、収入格差による住み分けは私にとって新たな視点となりました。その他にもお金持ちが存在する問題点や環境問題の社会的視点など様々な事柄について学習しました。そして、授業で学んだ知識を踏まえて、イギリスの社会を観察してみるととてもおもしろかったです。キール大学の周りの比較的田舎町とロンドンの中心部、ロンドン郊外などを比較すると、エスニシティだけではなく、建物や人々の生活の様子などが全く異なることがわかり、興味深かったです。また、私がイギリスを選んだ理由は移民の割合が高い一方で、白人という一つの人種が人口の半数以上を占めているということが日本と似ていると考えたからです。イギリス社会の良い点や改善点を日本においてこれからもっと移民が増加してきた時の参考にしようと考えました。特にキール大学の周りでは白人が圧倒的に多く感じましたが、彼らはアジア人の私に対しても他のイギリス人と変わりなく接してくれて、移民を平等に受け入れる姿勢を感じました。また、イギリスの人々はとてもフレンドリーな人が多いことが印象的でした。バスのスタッフが冗談を言って話しかけてくれたり、道に迷っていたら尋ねなくても声を掛けてくれたりします。日本ではあまりない状況だと感じ、以前長崎大学にて

留学生が「日本人と友達になるのは難しい」と言っていたことを思い出しました。今回イギリスでの経験を通して、私自身が日本に来る留学生の立場だったら日本では人との関わりが少ないため寂しく感じるのではないかと想像できました。外国人労働者の生活について関心があった私ですが、今までは行政サービスや外国人自身の生活のことなどにしか焦点を当ててきませんでした。しかし、これからの研究題材として人との関わりは重要な視点になるのではないかと気づくことができました。

最後に、留学をした3つ目の理由は英語力以外の部分でも自分を成長させるためです。留学前の私は、積極性がなく、自分に自信がありませんでした。しかし、留学を通して物事に対する考え方が大きく変わり、積極性と自信を身に付けました。今までの私は何をやるにも初めから諦めの気持ちが強く、新しい環境へ一歩踏み出すことに躊躇することが多くありました。しかし、イギリスでは限られた時間を有効に使うため、気になったことややりたいことは積極的にやろうと決めていました。大好きなバレエ鑑賞やフットボール観戦はもちろん、今まで興味のなかったコミック・ブック・コンペティションへの参加など友達からの誘いにも積極的に参加しました。自分から積極的に行動した思い出の一つとして、友達をアフタヌーンティーに誘ったことがあります。今までの自分ならやりたくても、自分から友達を誘ってまではやらないことが多々ありました。しかし今回は、アフタヌーンティーを体験したいと思った時にすぐ友達を誘い、レストランに予約の電話をし、自ら進んで行動しました。そのおかげで、友達も楽しんでくれてとても良い思い出となりました。このように、留学期間を通して新しいことに積極的に挑戦する楽しさと重要性を身をもって学びました。さらに、留学によって私は、自分自身に対する考え方が変わり、自分に自信ができました。今までの私は他人の目を気にしすぎていたところがあり、自分を見失っていました。しかし、キール大学での友達は自分の芯をしっかりと持っていることが印象的でした。特に、コミック・ブック・コンペティションに行った時は、周りの目を気にせず、コスプレをして自分は自分らしくしている人々の堂々としている姿に圧倒されました。その経験を通して、自分らしくしていることの魅力と大切さに気づき、それからは自分の行動をポジティブに捉え、自信を持つことができるようになりました。

以上のように、私にとってイギリス留学は学問面、精神面ともに私自身を成長させてくれる大きなきっかけとなりました。イギリスの文化に触れて、今までの当たり前を払拭しました。留学を通して得られた学びや変化は一生の宝物です。これからの大学生活だけでなく、社会に出た時にもこれらのことを忘れないように生かしていきます。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



キール大学構内にはリスがたくさんいて、とても癒されます。自然に囲まれた大学です。



クリスマス・ブランチ

留学生限定で無料で提供されました。キール大学では無料で楽しめるイベントがたくさんあります。



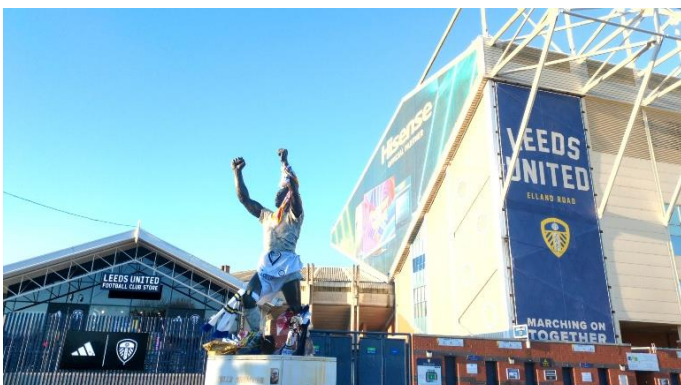
Tate Britain

イギリスには無料で入ることのできる美術館や博物館がたくさんあるので、気軽に鑑賞できました。



London Coliseum

本場のバレエを歴史ある劇場で楽しむことができました。



Elland Road Stadium

本場のフットボールをスタジアムで楽しみました。